

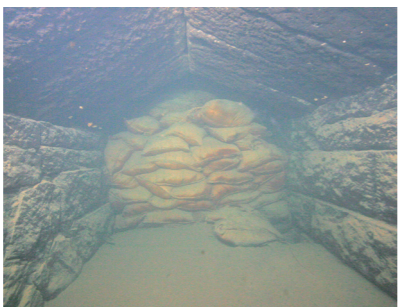
# 那須野が原を潤す「那須疏水」



那須野が原の開拓を進めるにあたり、大きな問題がありました。それは「水」です。水のとぼしい那須野が原に水をもたらすため、地元の名士たちが国にはたらきかけてできたのが、那須疏水です。

## 那須疏水の歴史

明治時代、那須野が原を開拓するために各地から人々が集まってきました。しかし、那須野が原は水がとぼしく、大勢の人の飲み水をまかなうことができません。そこで、地元の名士である印南丈作や矢板武が政府にかけあい、1882年（明治15年）、飲用水路がつくられ、那須野が原の北東を流れる那珂川から水を通しました。しかし、農業用の水を得るためにはさらに大きな水路が必要でした。政府にくり返しお願いをし、1885年（明治18年）、とうとう那須疏水が開かれたのです。



印南丈作

1831年（天保2年）、現在の日光市に生まれる。名主などをつとめ、1880年（明治13年）、那須開墾社という農場をつくり初代社長になる。



矢板武

1849年（嘉永2年）、現在の矢板市に生まれる。名主や県会議員をつとめ、1888年（明治21年）、那須開墾社2代目社長となり、のちに矢板農場をつくる。

◀旧取水施設内部のトンネルのようす。東隧道（上）と西隧道（下）。

▼那珂川の切り立ったがけに、トンネルを掘ってつくられた那須疏水旧取水施設。現在はこの近くにつくられた、新しい取水施設が使われている。

### ? どうやって地下に水路を引いた?

① 中が空洞になるように、五角形に石を積み、ならべる。

② もとあった川底の砂利や砂で、石組のトンネルをうめる。

③ 1本のトンネルができ上がり、地下のトンネルに水が流れる。

◀蛇尾川の地下に通る水路。水が上がって出てくる垂直方向にU字形に水路をう回させることで水を送っている（伏越、サイフォン水路）。

## 那須疏水の今

取入口の場所を何度か変更しながら、那須疏水は、現在も使われています。今も那須野が原一帯に水路がはりめぐらされ、農業用水や工業用水、水力発電などに利用されて、人々の役に立っています。



▲那珂川の水を取り入れる那須疏水の取入口。むかつて右のがけにあるのが旧取入口、現在使われている左の施設は1976年（昭和51年）に完成した。

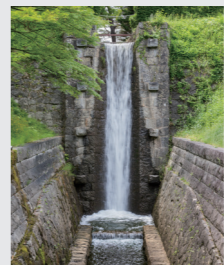
### 那須疏水マップ



◀蛇尾川の地下の水路を通り、水が上がってくるサイフォン出口。出てきた水はまた地上の水路を流れていく。

### 日本三大疏水

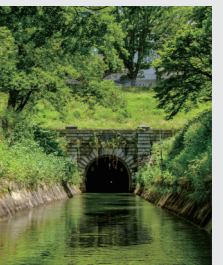
疏水とは、水源から水を引くためにつくった水路のことです。那須疏水は、福島県の安積疏水、滋賀県と京都府をつなぐ琵琶湖疏水とともに、日本三大疏水のひとつにあげられています。



安積疏水



那須疏水



琵琶湖疏水